



産業振興センター完成

立派に育てたい津軽テクニカ

「公設民営」という新しい方式をとり入れて誘致した市

浦村産業振興センター津軽テクニカは、二月一日操業を開始しました。

「津軽テクニカ」として、この地に蒔かれた「種」は、村民の暖かい手で育てあげ、立派な花と実を結ぶようにしたいものです。

本号では、産業振興センター津軽テクニカを特集して掲載いたしました。

(関連記事二一四面)



電子音響機器の組み立て作業をする従業員



調整・修理も重要な作業



やる気満々な津軽テクニカ従業員

今月の主な記事

- 津軽テクニカ
- 200人雇用へスタート…(2)
- 津軽テクニカで間所式…(3)~(4)
- 村議会組織会
- 豪雪対策本部設置……………(5)
- 脇小で1日入学……………(6)
- 室内運動会……………(7)
- 歴史散歩……………(8)
- お知らせ……………(9)
- 戸籍の窓……………(10)

地域経済の活性化と

200人雇用へスタート

実績を挙げ 産業振興のシンボルに

市浦村産業振興センターが
このほど完成し、一月三十日
午前十一時から落成修成式と
祝賀会を行いました。

修成式は、完成した同セン
ターに関係者二十人が出席し
て行われ、正午からは津軽東
芝音響関係者、村内各種団体
長ら約七十人が出席して落成
祝賀会を開催、同センターの
完成を祝いました。

落成式では、三重實村長が

「過疎村しらの自立と若者
が戻ってくる村、村民が安心
して暮らせる村づくりをめざ
して、産業振興センターの建
設にふみきました。このセンタ

ーが新しい時代へのプロテ
ィアとして、また、この地域
の産業振興のシンボルとして
大きく進展させたい」と式辞
を述べたあと、竹谷博則建設課
長が建設経過報告をしました。
来賓として出席した津軽東

芝音響株式会社松井可清社
長、同磯子工場の松島虎夫常
務が「津軽テクニカは、村の
強い願望と熱意によって生ま
れたものである。一時も休む
ことをゆるさされない厳しい業
界だが、村との約束を守り、
センターを作ったよかつたとい
われるように育て上げたい」と
祝辞を述べました。

また、津軽テクニカの指導
育成を担当することになった
山村広場西側にある七千平

佐野実代表（津軽東芝音響工
場長）は「軽薄短小の技術革
新の中で、いかに時代のニーズ
に合わせるべきか、真剣に取り
組まなければならない。市浦
村の限りない発展と業界で
生きのびるためにも、全力を
注ぐ覚悟である」と述べ、笹
山七郎村議会議員の乾杯で
産業振興センターの完成を祝
いました。

方計の敷地に完成した産業振
興センターは、木造平屋建て
で、建設床面積が四百九十五
二平方メートル。温風暖房付き
作業室のほか休憩室、事務室
などが配備され、総工事費は
一千六百万円でした。



市浦村産業振興センターが完成し盛大に落成
修成式を挙りました

サア、出陣だ

村長 三重 貢



政治の一つの柱として「二
百人雇用の場を創出しよう」と
努力してきましたが、津軽
東芝音響株式会社の深いご理
解とご支援によりまして、津
軽テクニカとして操業させる
ことが出来ました。

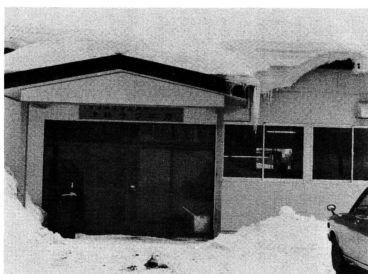
企業とは、生存競争の激し
い。戦いの場であると感じ
ます。その意味では、間所式
は、戦いに向う。出陣の式
。出陣の日であると思われ
、企業は、強く、大きくなけ
れば発展しません。
人が、この会社は自分たちの
汗と力で育てあげたんだ。生
存競争に勝ち抜くんだという
気持ちで頑張っていたんだ
かと思えます。そして、津
軽テクニカを本村における産
業振興のシンボルとして育て
あげたいものだ。

「津軽テクニカ」で開所式

従業員38人で操業開始

市浦村産業振興センター津軽テクニカ（佐野実代表）は、二月一日から操業が開始し、地元から採用された三十八人の従業員らは、統一した作業服に身をつみ、さっそく作業

方法分担につき、会社の限りな



津軽テクニカは電子音響機器の組み立て業務を行っています
—完成した産業振興センター—

い発展と本村経済の活性化へ、むけて第一歩をふみ出しました。本村はこれまで、麻校になった校舎や集会所などを増築をして、企業に貸し付ける方法をとってきましたが、施

設が老朽化していることや、塩害、強風などが企業進出には大きな「カベ」となっていました。村では昨年九月、ふるさと定村対策案に基づき雇用奨励補助金の交付制度、工場誘

津軽テクニカに期待

横浜市長・東芝音響機



工場長 桑原 芳彦

すぐれた品質と技術によりアメリカをはじめヨーロッパなど多くの国々に約七〇％が輸出されています。

私共の東芝音響グループはラジオをはじめ、ヘッドホンステレオ、ステレオ、ラジオホンセ、カオケ機器など、音響製品に名のつくものはほとんど作っていますが、津軽東芝音響には、小型ラジオ、ヘッドホンステレオなど比較的小さなものを作っていただいております。

も経済変動やいろいろな条件が絡んだ「波」があります。これからスタートする津軽テクニカのみならず、仕事に忙しい時は日曜日も出勤してもらうことある、仕事が少ないときは、月曜日でも代わり休んでもらうこともあります。このように音響業界は変動が激しい産業

致奨励案例などを制定し、五所川原市に本社がある津軽東芝音響株式会社（桜井可清社長）と接渉を続けてきました。昨年十二月八日に締結した工場立地に関する基本協定書では「村が用地造成と工場を建設し、津軽東芝音響が内部設備をして経営、指導、育成に当たる」という、県内では例のない方法を取り入れて、「津軽テクニカ」として誕生させたものです。

二月一日の操業に先だってありますので、変動についていっていただきたい。東芝音響製品は、世界中の一番大きいメーカーに追いつき、追い抜こうとしています。この原因は、東芝の音響製品は品質がよからであり、品質がよい製品を作るため、品質のよいメーカーが担当する作業を確実にする。このことが積み重ねて良い品質の製品が生み出るのであります。津軽テクニカの作業もこれからスタートするわけですが、一人一人が確実に作業をして津軽テクニカで作った製品は品質がよいものばかりだといわれるようにがんばってほしいと思います。



津軽テクニカ代表 佐野 実

技術指導に 全力注ぐ

市浦村産業振興センター津軽テクニカの指導育成に当たることになりました。津軽テクニカは、村当局はじめ、地域住民の長い間の強い願望と熱意、東芝サイドの深いご理解とご協力によってつくりあげられたものです。私共がこれからやることとして、音響事業は、ますます伸びる産業といわれていますが、反面、非常に厳しい産業でもあります。この業界で生き残るため、他の業界に勝つためには、技能習得と技術のレベルアップに全力を注ぐ必要があります。軽薄短小の時代に入り、さらに機械化が進むと思うが、津軽テクニカは、その要求に十分対応できるように育てていきたいと考えています。

腕をみがいて頑張れ

津軽東芝音響(株)

社長 桜井可清



冬の厳しい自然条件の中で産業振興センターを完成させた村当局はじめ、地域住民の熱意とエネルギーに深い感激を覚えるものでございます。音響機器の組み立て業務を主体に「津軽テクニカ」をス

スタートさせるわけですが、厳しい音響業界の中で、開所式を終えたからこれでよいというのではいけません。開所式は「闘いに挑む出陣の日」であり、本当の意味では、これからが正念場であります。

幸いにして、心身気鋭の人們が集まり、やる気満々の顔がみられます。『サマ、やるぞ!』という今の気持を忘れずに、力を合わせて成果に結びつけてほしいものだ。音響業界の仕事は、日進月歩であり、これぞよいということはありません。これだけの技術があるから、これだけいんだ。ということではなくやる気満々の人たちが、より

以上に技術のレベルアップはかり、技術の進歩におくれないうにがんばってほしい。津軽テクニカを、いまの二倍から三倍、それ以上に伸ばしていきたいし、その可能性は十分あると思っています。伸びたり、縮んだりもしながらも、仕事の面では何となくやりくりはつくだらうと思っ

てゐる。腕をみがき、一日も早く技術をマスターして、他の業界に負けないように努力し、市浦村の発展と津軽テクニカのためにもがんばっていただきたいと思っています。

全知全能を傾注する

津軽テクニカ

従業員代表 高木洗一

このたび、時代の先端をゆく電子音響機器の生産活動が、東芝グループの温情あふれるご指導のもとに、この市浦村産業振興センター津軽テクニ



カを拠点として開始され、私共従業員がその栄光ある業務に従事することができました。これは、まさに感激のきわみであり、一同に代って心から感謝申し上げる次第であります。

市浦村の誰でもが、願望し

続けてきた地域再生の先頭として、エネルギーとエレクトロニクスの東芝の技術を欲欲に吸収し、東芝の限りない発展と市浦村経済活性化の礎となる覚悟を固めるとともに、次の事を誓います。

一、常に自己研鑽に励み、生産計画に基づいた良質な商品を作り安く、より早く作ることに努力します。

一、音響業界は他社との熾烈な闘いであるとともに、同業間での技術の競争であることも深く認識し、津軽テクニカの優位性を高めるため、全知全能を傾注します。

一、仕事をすることに誇りと喜びと生きがいを感じ、仲間意識を高め、生産性の向上に努めます。

一、仕事をすることに誇りと喜びと生きがいを感じ、仲間意識を高め、生産性の向上に努めます。

信頼関係で生まれた津軽テクニカ

助役 工藤誠一郎 (産業振興センター所長)



これといった地場産業もなく、若い人たちの流出が続きわが村も過疎化の一途をたどってきました。

行政を担当する者として、生産性の高い活力のある村づくりを柱に「若者を定住させたい」。何とかなければ」という気持ちで、昨年九月月からかつてご縁のあった津軽東芝音響株式会社に移注を続けました。何やかや揉み合いの返す中で、ようやく私の願いがかなえられ、津軽テクニカとして操業開始に近づいた。これは、東芝サイドの深いご理解とご支援によるもので、心から感謝申し上げます。

これといった地場産業もなく、若い人たちの流出が続きわが村も過疎化の一途をたどってきました。

村と津軽東芝音響の信頼関係の中に「津軽テクニカ」という「子供」が生まれたわけですが、これから「どう育てあげるか?」ここで働くみなさんと私共行政に課せられた大きな責任と義務があります。津軽テクニカを育てるためには、ここで働く人たちの気持、決意こそこれらの勝負につながるものと思う。何もかも初めてのこと、いろいろと厳しいことがあると思いますが、一人一人の力で津軽テクニカを育てあげなければなりません。

これがまた、自分の将来に結びつき、津軽東芝音響に対する言葉以上の思返しにつながるものだと思います。

村議会組織会

議長青山氏・副議長笹山氏を選出

○各常任委員も決まる



青山議長



笹山副議長

新しい村議会議員が選ばれてから初めての村議会(組織)が、二月十四日開かれ、

議長に青山又一氏(61歳) | 太田、当選三回、副議長には、笹山七三郎氏(74歳) | 脇元、

市浦村老人クラブ(村元高弥会長)では、健やかに老いるための健康教育と老後の生活に安定と満足感を得られるような学習、趣味、スポーツ等を通じて相互理解と親睦を深めようとして、「老人ことぶき大学」を開設しています。

老人ことぶき大学 知識欲に燃える



今年に入ってから、陶芸、村の歴史、健康管理、映画鑑賞など身近かな学習と多様な講師陣を招いて開講しています。が、「おもしろくて、ためになる」とすっかりお年寄りたちの人気を得ています。

二月十五日には、市浦村コ

藤武則、木村義光
教育民生常任委員会

▽委員長 | 葛西歌太郎、▽副委員長 | 三和芳次、▽委員 | 笹山七三郎、奈良正勝、土木常任委員会

▽委員長 | 島津典明、▽副委員長 | 成田長代、▽委員 | 木村清左衛門、三上敬司、▽西北五精神薄弱児施設組合議員 | 伊南忠雄

▽西北五衛生処理組合議員 | 村元則美、▽津軽北部消防事務組合議員 | 木村義光、島津典明

▽津軽北部老人福祉事務組合議員 | 三和芳次、三上敬司

ミニニティセンターで六回目の講話を聞き、七十人のお年寄りたちは、高松隆二企画財政課長から約一時間にわたって、「幼児教育と老人の役割」について、佐藤明美保健師から、健康管理について学びました。

講話の中では、考え込む? お年寄りもいました。熱心にメモを取る姿もみられ、老いてなお知識欲に燃える人たちが多く、有意義なひとときをすごしています。

(写真) ことぶき大学への出席はいまや楽しみ方の一つに

豪雪対策本部設置

連日の雪に除雪隊がフル出動

雪、もうイヤ! 生活道路確保に全力



一月の大雪に続いて、二月に入ってから異常寒波は住民生活を圧迫しています。

村では六年前より豪雪対策本部を設置する一方、生活道路の除排雪にフル動員をかけていますが、連日の寒波と降雪に悲鳴をあげながらも全力投球しています。

本村の警戒積雪量は六十センチですが、断続的に降り続ける雪で七十センチを超え、当初見込んだ八百四十万円の除雪費は使いはたしています。

二月七日には、これまでの豪雪警戒体制を豪雪対策本部に切りかえ、当面の必要除雪經費として五百十万円を専決処分。除雪体制を強化して出動回数を増やしています。

豪雪対策本部の活動としては、消火栓、貯水池、消防道路の除排雪などを中心に、生活道路の確保に全力をあげることにしており、公共施設の除排雪、水道の凍結防止活動をしていくことにしています。

もうその気になつて ピカピカの一年生

協小で一日入学

協元小学校(長内幸右衛門校長)では、二月三日午後一時二十分から、この四月入学する新一年生の一日本入学を行いました。

お母さんに付き添われた子供たちは、目を輝やかせて学校気分を味わい、寒さを吹き飛ばすような元気いっばいの返事をしていました。

同校の新一年生は、男九人、女十四人のあわせて二十三人。昨年の七人に比べ十六人多い学校となりました。

受け付けで胸に名札をつけもらった子供たちは、仮席が準備された一年生の教室で、加藤かつ教諭、尾崎幸子教諭らと対面し、学校のきまりや楽しい学校の様子を聞きました。



先生の言うことを行儀よく聞き、ブリッ子を發揮...



お兄ちゃんやお姉ちゃんの教室でも大きな声でハイ!

いたあと、お兄ちゃん、お姉ちゃんの教室をみてまわり、大きな拍手で迎えられています。

このあと、希望を胸にいっばいにくらませた子供たちは、歌や絵芝居などを楽しんですっかり一年生気分にはなっていました。

一方、音楽教室で待機したお母さんたちには、長内幸右衛門校長から、入学にあたっての心構えについて、工藤節子養護教諭からは、入学前、入学後のしつけと健康についての説明があり、ホッとしました。お母さん方の表情がみられました。

父母の声援にハッスル

相小で恒例のスキー大会



全校児童が参加して開会式



寒さなんかには負けないぞ! 元気いっばいです

相内小学校(原田良二校長)恒例の校内スキー大会は、二月十一日、吉野スキー場で全校児童百五十六人が参加して熱戦を繰り広げました。

同校は、地理的に恵まれていることもあって、スキー競技には地区挙げて力を入れています。

晴天に恵まれたこの日は、ミニスキー、そり、大回転、回転、アルペン直滑降、ビクニック直滑降、距離と競技が行われましたが、テントを張り、たき火を囲んだ地区住民から、盛んな声援が飛んできました。

■豆スキーヤーたちは、約百二十名のスロープを鮮やかなシユールを描きながら滑り降り、技とスピードを競い合っていました。

各競技の男女別優勝者は次のとおりです。

■そりの部
一年 小寺崇介、大沢由貴子、二年 吉田壮史、藤本美保子、三年 木村孝、小川愛
四年 秋田谷谷仁、秋田谷千春、五年 中居栄一、山内理恵子、六年 鳴海智道、岩間啓子

■ミニスキーの部
一年 三浦大志、小田桐晃子、二年 三和謙、斉藤由香

■大回転の部
樹、山田浩美、四年 白川逸樹、五年 青山潤哉、高田優子、六年 三和朋、鳴海優子

■回転の部
一年 小寺崇介、大沢由貴子、二年 吉田壮史、藤本美保子、三年 木村孝、小川愛、四年 秋田谷谷仁、秋田谷千春、五年 中居栄一、山内理恵子、六年 鳴海智道、岩間啓子

■アルペン直滑降
一年 笹山貴光、三和順子、二年 鳴海輝紀、三年 笹山恵一、佐藤香織、四年 白川逸樹、斉藤美穂、五年 青山潤哉、高田浩治子、六年 三和朋、鳴海優子

■ビクニック直滑降
三年 秋田谷幸仁、今真貴子、四年 宮本樹子、五年 中居栄一、三十七文子、六年 三和富士男、角谷ゆり子

■距離の部
三年 渡辺淳也、山田浩美、四年 三和晃、秋田谷千春、五年 三和貴道、安保さやか、六年 安保友樹、三浦理恵

それ！ ケツパレ



地区對抗室内運動会

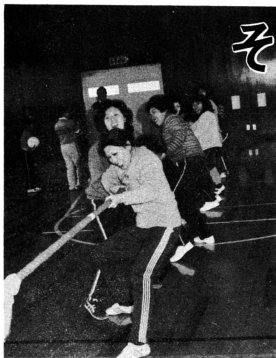
市浦村体育協会（島津典明会長）主催の第三回村民室内運動会は、一月二十二日午前九時三十分から、B&G財団市浦海洋センターに村民約二百人が参加して開かれました。この室内運動会は、スポーツ、レクリエーションを通じて心身の修養とコミュニケーションの形成をはかろう。と三年前から開いているもの。

ユニティ社会の建設に役立てほしい。室内運動会も、いま一つ盛り上がり欠けるが、ケガのないように楽しい一日を過ごしてほしい。とあいさつしたあと、下山時敏教育次長が「健康増進のため、スポーツの日常化をはかることが必要だ。みんなで元気よく頑張ってください」と激励しました。

このあと、木村ヒサ選手、太田チームが、室内運動会を精一杯楽しみ、村民相互の親睦と明るい村づくりのため力を合わせてがんばります」と力強く宣誓し、競技に入りました。



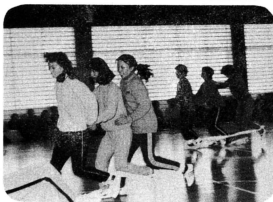
室内運動会には子供からお年寄りまで約200人が参加しました



ルール違反も、アイキョウです



輪投げ競技もなれたもの！



ムカデママさんががんばって！



▶ 61 ◀

法隆寺の礎石 (7)

奥の山味院

美事な寺院跡

御手洗堰を渡つて南側に至ると、石段に続いて一直線または散在して礎石が見

受けられます。それに続いて、石段からいうと南へ約三〇メートルの地点に、これまたびつくりするほどの中世の美事な寺院跡が姿を現わしました。

十三宗寺の跡

私は市浦村を訪問する他府県のお客さんたちの案内をしますが、「ここには昔十三宗派のお寺が建つていたところだそうです。十三もの寺が今田んぼになってい

る辺まで、この参道の両側に建ち並んでいたものですが、と説明したものでしたが、いまその一寺院の跡が厳然と姿を現わしたのです。

寺院の構造

前号の復元図の一番下をご覧下さい。実に三十一個の大礎石が整然と並んでい

ます。訪問客の誰だつてそんなことがあるものかという気持ちで私の説明を聞いていたに違ひありません。それは私自身でも何となく心にとがめられる気持ちで説明していたのですから、寺院の測量は雪消えを待つて行なうことになっていますけれど、一辺八、三メートルの方三間(八尺・一尺・八尺)で、縁側をめぐらした堂々たる建築物が想像されます。

雨落石列

建て物の東北隅と西隅とに(図面：部分)小児の頭大の石列が建物面よりやや下がつて配列されています。

このことは、この寺院の軒出しをあらわしていることを物語つているわけです。

寺院の復元図

以上の偉大なる考古学の発掘効果からこの寺院の復

礎石に兵火の跡

元想像図が坂田工學博士によつて作られ、スケッチ風に描き出されました(歴史漫歩五十回の広報をご覧下さい)。屋根が木肌ぶきの載せ、葺ぶか木肌ぶきの屋根を東西北ににだらかな曲線のそりを見せています。

寺院の大礎石を見ますと、礎石の中央に径四〇センチ位の円が残っています。これは柱の跡ですが、その外側は細かく割れてしまいます。このことは、この寺院が焼失したことを意味します。応永・嘉吉年間に南部氏に攻められ、安東氏が松前に退去しました。その時にこの山王の聖地も南部氏に焼討ちされたといわれています。これを裏証したものです。ほかにまたたきさんの礎石があります。

合格おめでとう

第66回算術検定試験

第六十六回商工会算術検定試験が二月十日、各小中学校で行われました。今回の受験者は八十一人、そのうち三十九人が合格しました。

▽二級 山内珠美(辻分球算塾)
▽三級 白川一貴、岩間清人、佐々木育子(辻分球算塾、後藤恵(藤元小))

▽四級 秋田谷留美子(辻分球算塾)、成田裕美(谷洋子小)、藤元小、三上智美(太田小)

▽五級 工藤真由美(辻分球算塾)、中村千恵子(藤元小)、工藤秀人、奈良和徳、奈良悦子(太田小)

▽六級 亀田直子、若山さおり(十三小)、浜田蘭子(浦田塾)、柳引伸子、竹谷美穂子(藤元小)、奈良靖宏、奈良千恵子(太田小)

▽七級 丁子谷智(辻分球算塾)、中井千春、相川麻美、秋田谷裕子(十三小)、中井歩美、中井規江、白川欽瑞(浦田塾)、成田恵美(辻分球算塾)

▽八級 小川愛(辻分球算塾)、山田和恵(藤元小)、山本博一(太田小)

▽九級 品川裕美、白川知緒子(浦田塾)、葛西啓子(藤元小)

▽十級 相川紗弥加、三上陽子、秋井梅子、鳴海洋子(浦田塾)

(津軽のことわざは休みます)



礎石



情報をお寄せください

おしらせ

役場の電話は62-2111



すこやか日記
わたしに弟でできたの、
名前が餅大ちゃん。とつて
もかわいいです。



成田俊二郎長女
友美ちゃん (5歳)

村の誘致企業

女子従業員を急募

津軽テクニカ

市浦村産業振興センター津軽テクニカでは、事業増大により女子従業員を募集しています。今年3月、高等学校卒業見込みの者、健康で働く意欲が旺盛な方の応募を望んでいます。

■職種 電子音響機器の組立て、調整、修理

■採用予定人員 35歳以下の女子20名

■勤務地 市浦村大字相内

■待遇・日給 2,960円(時間外有)

- ・賞与、精勤手当有、通勤手当有。
- ・社会保険の制度有(厚生、健保、労災、雇用保険)
- ・日曜、祝祭日、正月お盆休み有。

■勤務時間 8時15分～17時。

■応募手続 願書(役場又は津軽テクニカ備付け)、履歴書、健康診断書を津軽テクニカへ提出してください。

■受付日 3月20日

面接は、日曜、祝祭日を除き毎日8時30分から17時まで、津軽テクニカで行います。

■お問い合わせ

津軽テクニカ

・電話 62局3320番

市浦村役場企画財政課

・電話 62局2111番

通信制で生涯教育を

県立弘前高等学校で

通信制生徒募集

情報化社会といわれる現代では、高校程度の学力をもつことが要求されています。

働きながら学ぶという人たちに高校教育の機会を与えているのが通信教育です。

通信教育は自分の仕事、場所、能力に応じて勉強できる教育の場です。

□出願資格

- (1)昭和59年3月に中学校を卒業見込みの者。
- (2)中学校を卒業した者。
- (3)中学校卒業と同等以上の学力があると認められる者。

□出願手続き

- (1)入学願書、(2)最終学校卒業証明書(履修証明書)及び成績証明書。(3)昭和58年4月1日以降に検査を受けた健康診断書。

●昭和59年3月中学校卒業見込みの者は、中学校を通して出願してください。

□出願期間 昭和59年3月3日から4月7日まで。

□合格者の発表 出願書類によって選考し、筆記試験は行いません。

◎その他不明な点は、県立弘前高等学校(通信制)へお問い合わせください。

電話 0172 (32) 9 4 2 4 番

119番への通報は 落ち着いて正確に

電話のダイヤル化で、本村は「62局」の局番になりましたが、火災や事故を発見した時は局番「62局」をまわす必要はなく、直接119番をダイヤルしてください。消防ポンプ自動車や救急車が一刻も早く現場に到着し、効果的な活動をするためには、場所、目標、火災や負傷者の状況などを「落ち着いて」「正確に」通報することが大切です。

所得税の確定申告 はお早めに

昭和58年分の所得税の確定申告は、2月16日から受付が始まりました。申告期限は3月15日ですが、期間間近になりますと税務署はたいへん混雑します。落ちついて相談できなかったり、長時間お待ちいたただくようなことになりかねませんので、確定申告はできるだけ早く行うようにしてください。



「伊東きよの福祉基金」を設立

生福さんから寄付金三百万円

横浜市在住の生福精子さんから、このほど「市浦村の民生安定と老人福祉に役立ててほしい」と二百万円以内の多額の寄付金が届けられました。関係者をびつくりさせています。伊東きよさんは、小泊村出身の伊東よさんの長女、幼

稚園を経営しています。伊東さんは、市浦村に親も多く、生前から市浦村に老人福祉施設を建設したいという意志で、太田長根山に相当の山林原野を所有していましたが、その計画を実現できなかったまま、病のため急逝された方です。もともと、その土地の大部分が村の放牧場整備事業の中にあつたため、以前から用地交渉がもたれてきたところですが、先般工藤助役、松江課長が上京の際、村の計画に深い理解を示され、心よく協力を約束されたわけですから、二百万円の多額な寄付金は、土地の売却費の中より、故伊東きよさんの遺志として届けられたものです。村では、伊東さんが生前果たせなかった分も含めて、二百万円の寄付金を、「伊東きよの福祉基金(仮称)」として設立し、民生安定と老人福祉向上のため、未長く伊東さんの遺志を残していくこととしています。

青少年の 豊かな心を育てよう

最近、スポーツを通じて青少年の健全育成に成果を挙げている団体があります。特に野球やサッカーなどの集団スポーツは、連帯感や活動意欲を養っていくために効果的です。

また、スポーツを集団で行う以上、対外試合は避けられませんが、競技方向のためには必要不可欠です。その場合、高校野球で優勝したチームの監督が言ったように、「試

合に出場した選手よりも「ベンチに入らなかった子供の指

心身ともにたくましく

スポーツで連帯感や活動意欲を養う

導が実に難しい」ものです。集団スポーツに参加したものの、選手になれなかったり練習についていけず挫折し、問題を起す子供がいることでもあります。その点は、指導者にかかっていると

でしようか。チームの勝敗ばかりでなく、広い視野を持った指導者のいるチームは、ほんとの問題はみられないようです。

チームはレギュラーばかりで成り立っているのではない。この点をよく考えて集団スポーツを行ってください。

また、記録は相手との比較ばかりに目を奪われがちですが、自分の進歩を知る目安であることも、子供に言

かせましょう。親子や地域の人たちと一緒に活動するスポーツには次のようなものがあります。

- ▽親子で参加するハイキング、サイクリング、スキー、遠泳
- ▽早起きジョギング、ラジオ体操の会、親と子のスポーツ教室
- ▽地域ぐるみ登山
- ▽村民大運動会、地区対抗運動会、地区対抗球技大会
- ▽大人も子供も参加する縄跳び大会、歩け歩け大会

食べる楽しみを奪わない

食事は、少々時間がかかっても、周囲を汚しても、自分で食べるのがいちばんおいしいもの。手伝いすきて、お年寄りの「自分で食べる楽しみを奪わないように、ましよう。

寝たきり老人の看護法

献立を考慮の上で注意したいことは、むせやすいものや

まずお膳のものを見せて食べやすい大きさに切り、お年寄りの注文に従って口に運びますが、大切なはそのタイミング。口に運ぶのが早すぎたり遅すぎたりしないためには、お年寄りと一緒に口を動か

かみ方の調子を合わせてタイミングを計るとうまくいきます。

お年寄りが自分で食べる場合も、食べさせてあげる場合も、いつでも飲めるようにお茶をそばに用意しておいてください。

歯と口の手入れ
食後は、歯と口の手入れを

窓の 戸籍



お誕生

- (佐村 勝秀 (岐阜)
- (小倉 真澄 (十三)
- (柏谷 精一 (相内)
- (藤田賢代子 (東京)
- (小笠原君子 (桂川)
- (井上 隆雄 (秋田)
- (後藤富士子 (磯松)

- 古川 渉 (太田) 誠人
- 秋田谷 務 (桂川) 幸司
- 村山由季奈 (相内) 十三雄
- 成田 耕大 (相内) 俊二郎
- 秋田谷 賢 (桂川) 克春
- 柏谷 和洋 (相内) 肇

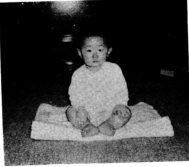


ご結婚

- (松橋 守 (車力)
- (藤田 悦子 (磯松)

赤ちゃんの赤ら顔

越谷 悟さん (十三) 長男 翔悟ちゃん (7ヵ月) ドッシリ落ちつきをみせ、7ヵ月とは思えないほど、将来が楽しみです。越谷家の宝です。



- (おくやみ
- 成田 ヨシ (磯松) 75歳
- 権引 其作 (驛元) 81歳
- 成田 美樹 (相内) 12歳
- 葛西 武美 (驛元) 79歳
- 小山内イド (十三) 63歳
- 成田豊五郎 (相内) 78歳